

教科名	社会科（地歴公民）	校種	高等学校
-----	-----------	----	------

科目の配当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1年	現代社会	必	2	
2年	世界史A	必	2	
	世界史B	選	2	
	日本史B	選	2	
	地理B	選	2	
	政治経済	選	2	
3年	日本史B	選	2	
	地理演習	選	2	
	日本史演習	選	2	
	選択政経	選	2	
	倫理	選	2	

科目名 (教科名)	現代社会 (公民科)				
担当教員	長澤 祐				
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	必修

### ■ 授業の目的

1. 文化・環境・経済・政治の構造及び歴史的経緯を把握し、総合的に日本及び国際社会のあり方を考える。
2. 人類的課題を認識し、未来を担う主体としての意識を持つ。
3. 時事問題をトピック的に取り上げ、社会問題を自分に引きつけて考える。

### ■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	第1部 現代の社会と人間 1. 現代の民主政治と日本国憲法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代国家と民主政治</li> <li>・日本国憲法の基本的性格</li> <li>・日本の政治機構と政治参加</li> </ul>
	2. 現代の経済社会と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の経済社会</li> </ul>
2 学期	3. 現代の経済社会と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本経済の特質と国民生活</li> </ul>
	4. 国際社会と人類の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際政治の動向</li> <li>・国際経済の動向と国際協力</li> </ul>
3 学期	第2部 わたしたちの生きる社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境問題</li> <li>・資源エネルギー問題</li> <li>・生命科学と情報技術の課題 (脳死と臓器移植など)</li> </ul>
	第3部 現代の社会と人間 1. 青年期と自己の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしく生きる (青年期、自己形成)</li> <li>・人間としてよく生きる</li> <li>・日本人としての自覚</li> </ul> <p>※第1部1～3の内容はすでに中学公民で学習したことをふまえ、トピック的に取り上げる予定である。 ※上記授業計画は、適宜変更・入れ替えを行うことがある。</p>
評価の方法	<p>・定期テスト+ノート・提出物・発表など平常点を加味して評価する。          &lt;評価の割合&gt; 定期テスト75～80%+平常点(ノート・提出物・発表など)20～25%</p>	
教科書・副教材等	<p>&lt;教科書&gt; 新版 現代社会 (実教出版)          &lt;副教材&gt; 新編テーマ別資料 現代社会 (とうほう)</p>	

科目名 (教科名)	世界史A (地理歴史科)				
担当教員	岩田 千裕				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	必修

### ■ 授業の目的

1. 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、日本の歴史と関連付けながら理解する。
2. 国際社会の中で主体的に生きる自覚と資質を身につける。
3. 文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察する。

### ■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	☆諸地域世界の特徴 ① ユーラシア大陸の諸地域世界 ☆大航海時代 ① 大航海時代以前の東西交流 ② 世界の一体化の始まり ☆近代の欧米社会 ① イギリス産業革命 ② 独立革命とフランス革命 ③ 反動と改革 ④ ナショナリズムの時代 ⑤ 南北アメリカの道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界史を学ぶ準備として、近代以前の諸地域世界の特徴を地図を適切に使って理解する。</li> <li>・世界史の序章として、ユーラシア大陸の東西交流や世界の一体化の始まりを、地図を適切に使って理解する。</li> <li>・産業革命・米国の独立革命・フランス革命を経て、現代に繋がる資本主義・民主主義理念が形成されたことを理解する。</li> <li>・これらの革命を経て、ナショナリズムが形成され、国民国家の枠組みがつけられたことを、その限界と共に理解する。</li> </ul>
2学期	☆ヨーロッパの進出とアジア ① バルカン・西アジア社会の動き ② インド・東南アジアの植民地化 ③ 東アジアと近代日本 ☆現代社会の特徴 ① 高度資本主義と大衆社会 ② 民主主義と国民国家 ☆帝国主義とアジアの民族運動 ① 欧米による世界分割と植民地化 ② 民族運動と列強の対立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米がアジアなど他地域に進出し、従属させていったことを、現代の旧植民地における諸問題の根源として理解する。</li> <li>・東アジアの変動を日本の動向とともに把握し、その歴史的一体性を感得する。</li> <li>・現在の世界と我々の生活に直接的に繋がる諸問題の土台が、この時代に築かれたことを理解する。</li> <li>・帝国主義諸国の膨張が世界中に広がり、激しい争いが始まった時代であることを理解する。</li> <li>・前時代の大国(オスマン帝国・清など)が列強の従属国になり衰亡したが、そこから新たな民族意識が生まれたことを理解する。</li> </ul>
3学期	☆二つの世界大戦 ① 第一次世界大戦とロシア革命 ② ヴェルサイユ体制と欧米諸国 ③ 民族主義の新展開 ④ ファシズムと第二次世界大戦 ☆冷戦の時代 ①冷戦の形成と第三世界の登場 ②核戦争の危機 ③多極化と緊張緩和 ④冷戦の変質と終焉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20世紀の二つの世界戦争から、現代の国家・社会がどのようなことに留意し、世界平和の実現のために何が必要か考える。</li> </ul> <p>※上記授業計画については授業展開の都合や生徒の状況から変更する場合があります。</p>
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト+ノート・提出物など平常点を加味して評価する。</li> </ul> <評価の割合> 定期テスト80%+平常点20%	
教科書・副教材等	<教科書> 「現代の世界史」山川出版 <副教材> 「世界史詳覧」浜島書店	

科目名(教科名)	世界史B(地理歴史科)				
担当教員	岩田 千裕				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選 択

### ■ 授業の目的

1. 現在の世界が、過去の様々な事象の積み重ねによって作られたものであることを確認・理解し、自己の判断力・価値観形成の一助とする。
2. 歴史を世界的な視野で捉えることにより、他国・他民族への理解を深める。
3. 大学受験の準備にも応用できるように、適宜発展的な内容に取り組む。
4. 自ら世界史に関する課題を探求していく作業において、課題解決に向けての調査・考察の適切な方法を学び、十分に検討を行った上で、答えを導き出す力を身につける。

### ■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	先史の世界	・先史の世界
	オリエント世界と地中海世界	・古代オリエント世界 ・ギリシア世界 ・ローマ世界
	アジア・アメリカの古代文明	・インドの古代文明 ・東南アジアの諸文明 ・中国の古典文明 ・南北アメリカ文明
2 学期	内陸アジア世界・東アジア世界の形成	・草原の遊牧民とオアシスの定住民 ・北方民族の活動と中国の分裂 ・東アジア文化圏の形成
	イスラーム世界の形成と発展	・イスラーム世界の形成 ・イスラーム世界の発展 ・インド・東南アジア・アフリカのイスラーム ・イスラーム文明の発展
3 学期	ヨーロッパ世界の形成と発展	・西ヨーロッパ世界の成立 ・東ヨーロッパ世界の成立 ・西ヨーロッパ中世世界の変容 ・西ヨーロッパの中世文化  ※ 上記授業計画は、適宜変更・入れ替えを行うことがある。
評価の方法	・定期試験＋ノート・提出物など平常点を加味して評価する。 <評価の割合> 定期試験70%＋平常点30%	
教科書・副教材等	<教科書> 「詳説 世界史B」山川出版社 <副教材> 「ニューステージ 世界史詳覧」浜島書店 <問題集> 「詳説世界史 10分間テスト」山川出版社	

科目名(教科名)	日本史B				
担当教員	船木 暢夫				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選 択

### ■ 授業の目的

1. 歴史学を多角的・論理的に学習して、歴史を動かす要因について考えさせる。
2. 日本の歴史が、諸外国との関係の中で成り立っていることを学ぶことで、国際理解、近隣諸国への理解の必要性を感得し、また、現在の国際関係などにも積極的な関心を持つようにする。

### ■ 授業計画

学 期	授業の項目	内 容 の ポ イ ン ト
1 学 期	近代国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開国と幕末の動乱</li> <li>・ 明治維新と富国強兵</li> <li>・ 立憲国家の成立と日清戦争</li> <li>・ 日露戦争と国際関係</li> <li>・ 近代の産業と文化</li> </ul>
2 学 期	二つの世界大戦とアジア  占領下の日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第一次世界大戦と日本</li> <li>・ ワシントン体制</li> <li>・ 市民生活の変容と大衆文化</li> <li>・ 恐慌の時代と軍部の台頭</li> <li>・ 第二次世界大戦</li> <li>・ 占領と改革</li> </ul>
3 学 期	占領下の日本(続き) 高度成長の時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冷戦の開始と講和</li> <li>・ 55年体制</li> <li>・ 経済復興から高度成長へ</li> </ul> <p>(現代史で学年末に残った範囲は高3の日本史で学習する)</p>
評価方法	定期テスト＋ノート・提出物・課題など平常点を加味して評価する。	
教科書・ 副教材等	教科書：「詳説 日本史B」山川出版社 資料集：「新詳 日本史」浜島書店、「史料による日本史」山川出版社	

科目名 (教科名)	地理B (地理歴史科)				
担当教員	下 政一				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選 択

### ■ 授 業 の 目 的

1. 現代世界の地理的事象を系統地理的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
2. 現代世界の諸地域を、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察する。
3. 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚と資質を持つ。

### ■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理情報と地図</li> <li>・自然環境</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の地図</li> <li>・地図の種類とその利用</li> <li>○自然環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の地形、気候</li> <li>・日本の自然の特徴と人々の生活</li> <li>・環境問題</li> </ul> </li> </ul>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の残り</li> <li>・資源と産業 (1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資源と産業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の農林水産業</li> <li>・食料問題</li> <li>・日本、世界の資源・エネルギー問題</li> </ul> </li> </ul>
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期の残り</li> <li>・資源と産業 (2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資源と産業〔続き〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本、世界の工業</li> <li>・第3次産業</li> </ul> </li> </ul>
評価の 方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト＋ノート・提出物・発表など平常点を加味して評価する。</li> </ul> <評価の割合> 定期テスト75～80%＋平常点(ノート・提出物・発表など)20～25%	
教科書・ 副教材等	<教科書> 『新詳地理B』 (帝国書院) <副教材> 『新詳高等地図』 (帝国書院) 『最新地理図表GEO』 (第一学習社)	

科目名 (教科名)	政治経済 (公民科)				
担当教員	下 政一				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選 択

### ■ 授 業 の 目 的

1. 私たちの日常生活と関わりの深い政治・経済について理解し、社会の仕組みへの関心を高める。(知識・理解)
2. 人生を主体的に生きていくための判断基準を構築し、表現できるようにする。(思考・判断・表現、技能)
3. 時事的な出来事に関心を持ち自分の考えを持つ「賢い大人」になる。(関心・意欲・態度)

### ■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	1. 現代の政治 (1) 現代国家と民主政治 (2) 日本国憲法と基本的人権 (3) 日本の政治制度と政治参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民主政治の成立や基本原理・各国の政治制度について学習する。</li> <li>・ 日本国憲法の成立や憲法で定める基本的人権について自由権・平等権・社会権・参政権・新しい人権の順に学習する。</li> <li>・ 日本の政治のしくみについて、国会・内閣・裁判所・地方自治の順で学習する。</li> </ul>
	3. 現代の諸課題①	・ 1学期に学習した分野の今日的課題についてテーマを選択し、レポート課題で学習する
2 学 期	(4) 現代の国際政治 (5) 日本の平和主義と国際平和 2. 現代の経済 (1) 経済社会の変容 (2) 現代経済のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際社会と国際連合、国際政治の歴史について学習する。</li> <li>・ 憲法の平和主義、自衛隊・日米安保について学習する。</li> <li>・ 資本主義経済・社会主義経済の仕組みについて学習する。</li> <li>・ 市場経済、企業、景気変動、金融、財政の役割について学習する。</li> </ul>
	3. 現代の諸課題②	・ 2学期に学習した分野の今日的課題についてテーマを選択し、レポート課題で学習する
3 学 期	(3) 現代の日本経済と福祉の向上 (4) 現代の国際経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本経済のあゆみ、公害問題、労働問題、社会保障について学習する。</li> <li>・ 国際経済のしくみ・動向、発展途上国の課題について学習する。</li> </ul>
	3. 現代社会の諸課題③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3学期に学習した分野の今日的課題についてテーマを選択し、レポート課題で学習する</li> </ul> <p>※上記授業計画については授業展開の都合や生徒の状況から変更する場合があります。</p>
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期テスト+ノート・提出物・課題レポートなど平常点を加味して評価する。</li> </ul> <p>&lt;評価の割合&gt; 定期テスト70%+平常点30% (学期レポート・提出物・授業態度等) ※課題の内容により5%の間で増減する</p>	
教科書・副教材等	<p>&lt;教科書&gt; 「最新 政治・経済」実教出版</p> <p>&lt;副教材&gt; 「政治・経済資料」とうほう</p>	

科目名 (教科名)	日本史B (地理歴史科)				
担当教員	長澤 祐				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選 択

### ■ 授 業 の 目 的

1. 歴史を多角的に学習することにより、客観的思考を養い、現代日本社会のあり方を主体的に考える力を身につける。
2. 歴史を通して、日本と諸外国との関係を学び、平和な国際社会のあり方について考察する。
3. 過去に学ぶことを現代に生きる私たちの指針とし、未来への礎とする。

### ■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	中世社会の成立 (高2の続き) 武家社会の成長  幕藩体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院政と平氏</li> <li>・武士の社会</li> <li>・室町幕府の成立</li> <li>・室町文化</li> <li>・織豊政権</li> <li>・幕藩体制の成立</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉幕府の成立</li> <li>・蒙古襲来と幕府の衰退</li> <li>・幕府の衰退と庶民の台頭</li> <li>・戦国大名の登場</li> <li>・桃山文化</li> <li>・幕藩社会の構造</li> </ul>
2 学 期	幕藩体制の展開  幕藩体制の動揺  近代国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幕政の安定</li> <li>・元禄文化</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕政の改革</li> <li>・幕府の衰退と近代への道</li> <li>・幕末の動乱</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済の発展</li> <li>・宝暦、天明期の文化</li> <li>・化政文化</li> <li>・明治維新と富国強兵</li> </ul>
3 学 期	日本史学習を振り返って	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の私たちと歴史のつながりを考える</li> </ul>
評価の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験＋ノート・提出物など平常点を加味して評価する。</li> </ul> <評価の割合> 定期試験80%＋平常点20%	
教科書・ 副教材等	<教科書> 「詳説 日本史B」 山川出版社 <副教材> 「新詳 日本史」 浜島書店 「史料による日本史」 山川出版社	



科目名 (教科名)	地理演習 (地理歴史科)				
担当教員	岡本 弘之				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選 択

### ■ 授業の目的

1. 地理で大学受験をめざす者を対象に、問題演習をする。
2. 地理の問題を解くうえで必要な地図や統計資料の読み取り方、地理的な考え方を学ぶ。

### ■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の貿易と経済圏</li> <li>・世界の人口問題</li> <li>・日本の人口問題</li> <li>・集落立地、成り立ち</li> <li>・村落の形態と機能</li> <li>・都市の機能と生活</li> <li>・都市問題</li> <li>・世界の衣食住</li> <li>・民族と宗教</li> <li>・国家と領土問題 など</li> </ul>	<p>教科書に沿って入試に必要な基本事項の習得。  (センター入試は教科書の内容を基礎として作問されている)  平行して問題演習による実践的かつ発展的な思考力を養成する。</p>
2学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア地誌</li> <li>・アフリカ地誌</li> <li>・ヨーロッパ地誌</li> <li>・アングロアメリカ地誌</li> <li>・ラテンアメリカ地誌</li> <li>・オセアニア地誌</li> <li>・日本の地理的な諸課題</li> </ul>	<p>問題演習を通して、入試に対応した実践的かつ発展的な思考力を養成する。</p>
3学期	入試問題演習	※上記授業計画は、必要に応じて入れ替えを行う場合がある。
評価の方法	<p>・定期テスト+ノート・提出物・発表など平常点を加味して評価する。  &lt;評価の割合&gt; 定期テスト75～80%+平常点(ノート・提出物・発表など)20～25%</p>	
教科書・副教材等	<p>&lt;教科書&gt; 『新詳地理B』 (帝国書院)  &lt;副教材&gt; 『新詳高等地図』 (帝国書院)  『統計』地図データファイル2017年度版 (帝国書院)  『新編 地理資料 2017』 (とうほう)</p>	

科目名 (教科名)	日本史演習 (地理歴史科)				
担当教員	長澤 祐				
学年	3	単位数	2	必修・選択・履修	選 択

### ■ 授 業 の 目 的

1. 日本史で大学受験をめざす者に対する、受験知識を中心に学習する。
2. 日本史Bで学習しない近世史・戦後史を学ぶ。
3. 受験に必要な史料の読解、資料の解説、および私学・センター入試対策としての問題演習を行う。

### ■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	戦後史	・ 1945年～1980年代の戦後史
2 学 期	史料読解・資料解説  入試問題演習	・ 史料集・資料集の中から重要・頻出の史料・資料を選んで、そのポイント・用語・意味を学習する。  ・ センター試験対策、私大対策として、過去問題、類似問題に多く当たり、出題者の意図や解答の際の着目点などを含めた解説を行う。
3 学 期	(入試問題演習)	・ (同上)  ※上記授業計画は、必要に応じて入れ替えを行う場合がある。
評価の方法		
教科書・副教材等	<教科書> 「詳説 日本史B」 山川出版社 <資料集> 「新詳 日本史」 浜島書店、「史料による日本史」 山川出版社 <問題集> 「詳説日本史 10分間テスト」 山川出版社	

科目名 (教科名)	選択政治経済 (公民科)				
担当教員	岡本 弘之				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選 択

### ■ 授 業 の 目 的

1. 私たちの日常生活と関わりの深い政治・経済について理解し、社会の仕組みへの関心を高める。(知識・理解)
2. 人生を主体的に生きていくための判断基準を構築し、表現できるようにする。(思考・判断・表現、技能)
3. 時事的な出来事に関心をもち自分の考えを持つ「賢い大人」になる。(関心・意欲・態度)

### ■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	2. 現代の経済 (4) 現代の国際経済 ◇ 国際経済分野問題演習  ◇センター問題演習 (分野別) 1. 現代の政治 2. 現代の経済  ◇夏期講習実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際経済のしくみ・動向、発展途上国の課題について学習する。</li> <li>・学習した分野について適宜センター問題演習を行う</li> <li>・2年時に学習した範囲について問題演習を行う</li> </ul>
2 学 期	3. 現代社会の諸課題  ◇センター問題演習 (総合) 1. 河合塾対策問題集 2. センター過去問題  ◇冬期講習実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治経済の時事問題について、テーマ別に学習を深める ※それぞれで調べて授業をさせる形で実施予定</li> <li>・センター本番に向けて同傾向の総合問題集の演習を行う、</li> </ul>
3 学 期	◇直前演習 ・弱点について知識の整理を行う	
評価の 方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト+ノート・提出物・課題レポートなど平常点を加味して評価する。</li> <li>&lt;評価の割合&gt; 定期テスト70%+平常点30% (学期レポート・提出物・授業態度等) ※課題の内容により5%の間で増減する</li> </ul>	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;教科書&gt; 「最新 政治・経済」実教出版</li> <li>&lt;副教材&gt; 「政治・経済資料」とうほう チェック&amp;演習 政治・経済 数研出版</li> </ul>	

科目名 (教科名)	倫理 (公民科)				
担当教員	下 政一				
学年	3	単位数	2	必修・選択・履修	選 択

### ■ 授 業 の 目 的

1. 「人間はいかに生きるべきか」・「世界はいかにあるべきか」について、先人の思索に学ぶ。
2. 人類が辿ってきた倫理的・哲学的課題を考えることを通して、現代社会に生きる自らのことを主体的に考察する。
3. センター試験を意識した学習とし、大学入試に対応できるようにする。

### ■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目	内 容
1 学 期	(現代に生きる自己の課題) 人間としての自覚と生き方  現代社会と倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (「現代社会」の授業で学習)</li> <li>・ 古代ギリシャの思想 (ソクラテス・プラトン・アリストテレス)</li> <li>・ ユダヤ教とキリスト教、イスラム教</li> <li>・ 人間の尊厳と生命尊重 (ルネサンス・宗教改革・モラリスト)</li> <li>・ 近代科学の哲学 (ガリレイ・ニュートン・科学革命・ベーコン・デカルト)</li> <li>・ 民主社会と幸福 (社会契約説・功利主義・初期社会主義)</li> <li>・ 自己実現と社会参加 (カント・ヘーゲル・マルクス)</li> </ul>
2 学 期	現代社会と倫理 (続き)  人間としての自覚と生き方 (続き)  国際社会に生きる人間としての自覚  現代の諸課題と倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己実現と社会参加 (実存主義・プラグマティズム)</li> <li>・ 新しい時代への扉 (フロイト・ユング・構造主義・フランクフルト学派・ロールズ・セン)</li> <li>・ 古代インド思想・仏教</li> <li>・ 中国思想・儒学</li> <li>・ 日本の風土と人々の考え方</li> <li>・ 日本の仏教</li> <li>・ 日本の儒教</li> <li>・ 国学と近世民衆・近代日本の思想</li> <li>・ 生命倫理など</li> </ul>
3 学 期	哲学と現代 (まとめ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代に生きる我々の倫理・哲学的課題を考える。</li> </ul>
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期テスト+ノート・提出物など平常点を加味して評価する。</li> </ul> <評価の割合> 定期テスト7~80%+平常点2~30%	
教科書・副教材等	<教科書> 「高等学校 新倫理」清水書院 <副教材> 「最新区説 倫理」浜島書店 ※倫理での大学受験志望者は、入試問題集を追加購入させる場合がある。	